The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	東北日本人の形質人類学的研究　津軽・下北地区について
Author(s)	金澤, 豊純
Citation	大阪大学, 1967, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/29457
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

【34】

氏名・(本籍)	金澤豊純（かなざわとよすみ）
学位の種類	医学博士
学位記番号	第 1310 号
学位授与の日付	昭和42年12月22日
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当
学位論文名	**東北日本人の形質人類学的研究　津軽・下北地区について**
論文審査委員	(主査) 教授 小浜 基次
	(副査) 教授 伴 忠康　教授 浜 清

論文内容の要旨

〔目　　的〕

日本人は同じ言語や文化で結ばれた日本民族を形成しているが，日本人の身体形質には著しい地方差がある。小浜は広範な日本人の生体計測学的研究を総合し，現代日本人を2つの地方型に分類している。すなわち，東日本を代表する東北・裏日本型と西日本を代表する畿内型である。特に東北・裏日本型にはアイヌ系形質が関与していることを想定している。われわれの教室では，1951年よりアイヌの人類学的研究を行ない，また，日本人とアイヌとの関係を追究するために，東北地方の調査を進めている。この報告は東北地方のうち，津軽，下北地区の成果（1958〜63）であり，津軽，下北地区の特性，地区内の地域差を追究し，さらにアイヌとの関連を検討したものである。

〔資料と方法〕

調査地は青森県津軽地区では，南津軽郡藤埼，北津軽郡板柳，市浦，東津軽郡今別，三厩，西津軽郡深浦，鰺ケ沢，中津軽郡西目屋，下北地区では三戸郡名川，下北郡川内，大畑である。調査地はいづれも都市を離れた農，漁，山村を選び，資料は土着の住民に限り，外来者は資料より除外している。20〜59才の男子811名，女子1250名を対象とし，生体計測，生体観察，血液型，味盲の調査をした。生体計測方法は Martin によるほか，科研・日本人の生体測定班の協定によった。

体部，頭部，顔部の重要な測度，指数を示標として，平均偏差比法 $\frac{1}{S}\Sigma\frac{|M_1-M_2|}{\sigma}$ によって，集団間の類似度を数量的に検討した。

〔成　　績〕

1）津軽地区，下北地区の地域差について

地域ごとの男子平均偏差比は，津軽地区内0.13〜0.22（平均0.17），下北地区内0.10〜0.25（平均0.16）であり，きわめて小さく，津軽，下北地区内では，それぞれの地域集団は互いに近似し，同一

群とみなしてよい。女子についても，おおむね一致する。

2) 津軽地区，下北地区の特性について

津軽，下北人は生体計測学的には，多くの共通した特性を示している。

下北の身長は男女ともに津軽よりやや高い。津軽男子の比下肢長は下北より大きく，比軀幹長は小さい傾向にあるが，女子では差異は認めない。比肩峰巾，比骨盤巾は男女ともに両地区は類似している。

頭長は津軽，下北間に差異はなく，ともに190mmを突破し，日本人としては著しく大きい。津軽の頭巾は男女ともに下北より大きいから，頭長巾指数としては津軽は下北よりやや大きいが，ともに中頭の上限に位し，互いに接近している。頭耳高，頭長高指数に地区差はなく，日本人としてはやや低頭である。頭巾の大きい津軽の頭巾高指数はやや小さい。

津軽，下北の頬骨弓巾には差異を認めがたく，日本人としては大きい部類に入る。頭巾の広い津軽の頭顔指数はやや小さい。容貌顔面指数，下顎指数，鼻高巾指数では両地区は近似している。

津軽，下北男子の体部，頭部，顔部についての平均偏差比は0.16であり，類似度はきわめて高い。

3) 平均偏差比による種族間の類以度について

津軽人は下北（0.16）にもっとも近似し，これに次ぐものは混血アイヌ（0.34）であり，とくに体部（0.22），顔部（0.23）が類似している。津軽人と畿内人（0.56）との隔たりは，津軽人と純アイヌ（0.57）との隔たりに近く，特に頭部において，はなはだしい。

下北人を基準とした偏差化も津軽人におおむね一致する。

混血アイヌは純アイヌ（0.28），下北人（0.31），津軽人（0.34）に少差をもって類似し，畿内人（0.70）とは離れている。

純アイヌを基準とすれば，混血アイヌ（0.28），下北人（0.55），津軽人（0.56），畿内人（0.95）の順となる。

畿内人はむしろ朝鮮人（0.44）に接し，下北人（0.51），津軽人（0.56）がこれに次ぎ，純アイヌ（0.93）とはもっとも離れている。

〔結　　論〕

1958～1963年，津軽，下北地区において形質人類学的調査を行ない，アイヌとの関連を追究した。

津軽，下北地区内では地域差は少なく，それぞれに共通の特性を示し，互いに近似している。

津軽人と下北人の諸形質を総合すれば，両者間の偏差比にきわめて小さく，類似度が高い。

津軽・下北人の諸形質は，日本人のうちでは東北・裏日本型に属し，畿内人よりは混血アイヌに接近し，アイヌが東北日本人の構成に関与することを示唆している。

論文の審査結果の要旨

この研究は東北地方のうち，津軽，下北地区の形質人類学的調査成果（1958〜63）であり，津軽，下北地区の特性，地区内の地域差を追究し，さらにアイヌとの関連を検討したものである。

津軽・下北地区内では地域差は少なく，それぞれには共通の特性を示し互いに近似している。津軽人と下北人の諸形質を総合すれば，両者間の偏差比はきわめて小さく，類似度が高い。

津軽・下北人の身長は日本人としては長身長の部類に入り，比下肢長は大きく，比軀幹長は小さい。比肩峰巾，比骨盤巾はともにすぐれている。頭長は日本人としては著しく大きいが，頭巾も大きいから，頭長巾指数は中頭の上限に位している。頭耳高はやや低く，頭長高指数，頭巾高指数はともに小さい。顔部では，頬骨弓巾が大きいので，顔面指数は小さい。

津軽・下北人の諸形質は，日本人のうちでは東北・裏日本型に属し，畿内人よりは混血アイヌに接近し，アイヌが，東北人の構成に関与することが示唆している。